

マルクス・エンゲルス年史

- ・ 1818年5月5日、マルクス、ドイツ、プロイセン領ライン州トリール市に生まれる。
(ベルリン大学を卒業。大学教師となることを望んでいたが、ボン大学講師の座を追われ、トリールに帰郷。ライン地方の新興ブルジョアジーにより立ち上げられた『ライン新聞』の2代目編集主任となる。)
- ・ 1820年11月、エンゲルス生まれる。
- ・ 1823年9月、リカード没
- ・ 1830年7月、(仏)七月革命
- ・ 1831年11月、ヘーゲル没
- ・ 1833年8月、(英)工場法成立
- ・ 1834年4月、パリ、リヨン労働者蜂起、パリでドイツ人亡命者同盟結成
- ・ 1838年5月、ロンドン労働者協会〈人民憲章〉公表
- ・ 1839年、チャーティスト運動激化
- ・ 1840年2月、ロンドン、ドイツ人労働者教育協会創立
- ・ 1841年3月、ベルリン大学卒業
- ・ 1841年4月、イエナ大学ドクトル位。ライン新聞創刊準備誘われる。
- ・ 1842年10月、ライン新聞主筆となる。
- ・ 1842年11月、ケルンでマルクスとエンゲルス最初の会見。
- ・ 1843年1月、ライン新聞にてプロイセン検閲制度批判。政府はライン新聞を4/1発禁処分。
 - ・ ジェニーと結婚
- ・ 1842年(24歳)・ケルンに移り、『ライン新聞』編集主任となる。
 - ・ エンゲルスと出会う。
(プロイセン政府は、『ライン新聞』に対して検閲を課し、1843年発行禁止を言い渡す。自らの信念から、マルクスは辞職声明を発表し、公の舞台を退いた。)
- ・ 1843年5月、パリに移る。
- ・ 1844年2月、パリで独仏年誌第1、2号合冊創刊。ユダヤ人問題に寄せてヘーゲル法哲学批判序説
エンゲルス イギリスの状態—カーライル批判 経済学批判大綱
- ・ 1844年4月、プロイセン政府 マルクスを反逆罪、不敬罪で告訴、逮捕状発行
- ・ 1844年8月、エンゲルス、パリのマルクスのもと10日間過ごす。共同作業はじまる。
11月、聖家族、イギリスにおける労働者階級の状態 執筆。
- ・ 1845年2月、マルクス、パリ追放ブリュッセルへ。(独)聖家族 刊行。
5月、エンゲルス、イギリスにおける労働者階級の状態 刊行。
8月、(ベルギー)ドイツ・イデオロギー 共同執筆開始。
- ・ 1846年1月、ブリュッセルに共産主義通信委員会設立。
- ・ 1844年、『独仏年誌』発行。(独仏年誌=政治・社会評論雑誌)
- ・ 1845年、パリから、ベルギー・ブリュッセルに亡命。(フランス内務省によって国外追放を言い渡された。)
- ・ 1845年(27歳)、エンゲルスとの共著作『聖家族』出版。
 - ◎『聖家族』とは。副題、『別名、批判的批判の批判、ブルーノー・バウエルとその伴侶を駁す』
 - ・ かつての同志、バウエル一派を「聖家族」と皮肉って呼び、批判した内容のもの。
バウエル一派は、大衆を馬鹿にし、哲学批判の中にドイツの進歩の道を求めようとしたが、マルクスは大衆の侮蔑を許せず、ライン新聞時代から深い溝ができていた。
- ・ 1845年、エンゲルスとの共著、『ドイツ・イデオロギー』を執筆。

◎『ドイツ・イデオロギー』とは。副題、『フォイエルバッハ、ブルーノー・パウエル、シュティルナーを代弁者とする最近の哲学に対する、ならびに種々の予言者たちのあらわれたドイツ社会主義に対する批判』

- ヘーゲル以後の哲学を批判。
- 刊行予定が出版社の都合で中止となり、マルクスとエンゲルスの死後刊行された。
- 1847年、『哲学の貧困』出版。
- 1848年、『共産党宣言』発表。
 - ブリュッセルから、再びパリに亡命。
 - ケルンに移り、『新ライン新聞』発行。
 - 同志とともに、ドイツのケルンへ乗り込んだマルクスは、新たに日刊紙『新ライン新聞』を発行し、共産主義運動をさらに推し進めていく。
 - 「共産主義者同盟」の下部組織として、「労働者協会」「労働者教育協会」を各地に設立する一方、民主主義的なものとの協調を認めていたマルクスは、「民主主義協会」をも利用していく。『新ライン新聞』には「民主主義の機関紙」という副題をつけていた。
- 1848年2月、『共産党宣言』発行。
 - フランス2月革命
 - *ブリュッセルでの革命運動遂行中であった。
 - フランス臨時政府から招請状があったが、
 - ベルギー国王から24時間以内国外退去が命じられ、逮捕拘留され、パリへと追放された。
 - 共産主義者同盟の本部がパリに設立され、マルクスは議長となる。
- ◎『共産党宣言』
 - 共産主義者同盟の幹部、カール・シャッパーから依頼を受け、マルクスとエンゲルスによって執筆された共産主義者同盟のための綱領。
 - さらに、ドイツのケルンに乗り込んだマルクスは、新たに日刊紙『新ライン新聞』を発行。
- 1848年5月、王家批判を新聞に掲載したことにより、ケルン当局から追放令が出される。
 - マルクスは、赤刷りの『新ライン新聞』最終号を出し、再び亡命先のパリへ向かった。
- 1847年1月、哲学の貧困 執筆
 - 6月、義人同盟ロンドン大会、〈共産主義者同盟〉と改称
 - 7月、哲学の貧困〈仏語版〉ブリュッセルで出版
 - 11月、ロンドンで〈共産主義者同盟〉第2回大会
 - マルクス・エンゲルス出席 綱領起草依頼される
- 1848年1月、(ベルギー)共産党宣言原稿完成、
 - ブリュッセル独人労働者協会で「賃労働と資本」講演
 - 2月、「賃労働と資本」書下ろし 共産党宣言 ロンドンで出版
 - 2月、(仏)二月革命勃発
 - 3月、マルクス、ベルギー追放されパリへ (独)三月革命勃発
 - 6月、新ライン新聞創刊
- 1849年4月、新ライン新聞「賃労働と資本」掲載

- 5月、プロイセン政府 マルクス追放命令 新ライン新聞発行停止
- 8月、マルクス亡命、ロンドンへ
- 11月、エンゲルス亡命、ロンドン到着
- ・1850年9月、共産主義者同盟内部決裂
 - マルクス、経済学批判執筆再開・大英博物館に通う
 - 11月、エンゲルス、マンチェスターへ(商会勤務)
- ・1850年、雑誌『新ライン新聞、政治経済評論』を発行するも、資金難のため、6号で潰れる。
- ・1852年、共産主義者同盟解散声明を出す。
 - ・マルクスは、大英博物館の図書室にかよい、経済学研究の完成をめざす。
 - ・また、新聞、雑誌からの依頼に対し寄稿した。
 - ・エンゲルスは、マンチェスターの父親の会社で働き、マルクスを援助する。
- ・1851年8月、ニューヨーク・トリビューン時事論説掲載開始(～62.2)
- ・1852年5月、ルイ・ボナパルトのブリュームル18日
 - 11月、(英)共産主義者同盟解散決議
- ・1853年、「ケルン共産党裁判の真相」バーゼルで出版
 - 10月、露土戦争はじまる
- ・1854年、ルイ・ボナパルトのブリュームル18日
- ・1856年3月、クリミア戦争終結
- ・1857年8月、経済学批判の序説執筆開始
- ・1859年6月、(独)経済学批判 第1分冊 刊行
- ・1860年7月、ロンドン労働組合評議会 結成
- ・1861年、マルクス 経済学批判ノート23冊書き続ける(～1863.7)
- ・1862年、マルクス 剰余価値学説史執筆(～1863.1)
- ・1863年5月、全ドイツ労働者協会成立 剰余価値学説史本文完了
 - 8月、資本論3巻の新稿に着手(～1865.12)
- ・1864年9月、第1インターナショナル創立
 - 11月、(マルクス執筆)創立宣言と規約採択
- ・1864年、インターナショナル(国際労働者協会)(第一インター)設立。中央委員会(後の総務委員会)の中心となるが、活動はあまり思うようにはいかなかった。
- ・1865年6月、ロンドン第1労働者インターナショナル中央委員会 「賃金・価格および利潤」講演
- ・1866年1月、資本論印刷用原稿準備
 - 6月、普墺戦争
 - 10月、資本論4部編成プラン確定
- ・1867年4月、マルクス、資本論印刷開始にハンブルグへ
 - 8月、北ドイツ連邦議会第1回選挙、リープクネヒト、ペーベル当選
 - 9月、(独)資本論第1巻出版
- ・1867年、『資本論』第一巻出版。
 - (1866年11月『資本論』第一巻がつくられ、1867年に出版された。)
- ・1869年7月、エンゲルス、政治・研究活動に専念 ドイツ社会民主労働党結成(アイゼナッハ)
- ・1870年普仏戦争(第二帝政期のフランスとプロイセン王国=後のドイツ帝国との間で行われた戦争)が始まる。
 - *フランスが敗れると、「パリ・コミューン」と呼ばれる労働者の革命政府が誕生

するが、70日余りで崩壊する。統一をなしとげたドイツは、資本主義が躍進する。

◎インターは、

- ・政治闘争やストライキに反対するブルードン派
 - ・極左的な無政府主義のバクーニン派
 - ・政治闘争やストライキを重視し、革命によって政治権力を労働者のものにしようとしたマルクスらとの間で対立した。
- ・ 1870年7月、普仏戦争始まる
 - 9月、エンゲルス、ロンドンに移転
 - ・ 1871年3月、パリコンミューン
 - 5月、「フランスの内乱」
 - 11月、資本論売り切れる
 - 12月、第二版のために資本論第一巻の改定にとりかかる
 - ・ 1872年4月、資本論ロシア語訳3千部発行
 - 7月、資本論第二版、第一分冊マイスネルから発行
 - 8月、資本論フランス語訳、第一分冊1万部発行
 - ・ 1872年、国際労働者協会第5回大会で、マルクスらはバクーニン派の除名を可決。
 - ・ 1873年11月、マルクス診察一切の仕事禁じられる
 - ・ 1875年5月、「ゴーター綱領評註」綱領草案批判
 - ・ 1876年11月、国際労働者協会解散決定
 - ・ 1876年、インターは、解散を決定。このことによって、また、家族の続けての死により、マルクスの肉体は著しく衰えていった。
 - ・『資本論』第二巻、第三巻をまとめようとするが、肝臓病、肋膜炎、気管支炎、肺炎、咽頭炎などを併発し、最後は肝臓がんを併発。
 - ・ 1877年1月、エンゲルス「反デューリング論」フォルベルツに連載
 - ・ 1878年10月、独社会主義鎮圧法
 - ・ 1879年10月、仏社会主義労働党
 - ・ 1881年12月、マルクス夫人ジェニー没す
 - ・ 1883年1月、マルクス娘ジェニー没
 - ・ 1883年3月14日、マルクスは死去する。
 - ・ 1883年、エンゲルス「資本論第一巻」第三版発行
 - ・ 1884年、エンゲルス「家族・私有財産及び国家の起源」発行
 - ・ 1885年、エンゲルス「資本論第二巻」発行
 - ・ 1886年、エンゲルス「フォイエエルバッハ論」ノイエツアイト掲載
 - ・ 1889年1月、エンゲルス、カウツキーに資本論第四巻序文浄書と編纂依頼
 - ・ 1890年7月、第二インターナショナル設立
 - ・ 1890年10月、独社会主義鎮圧法廃止
 - ・ 1891年1月、エンゲルス、マルクスの「ゴーター綱領批判」ノイエツアイトに掲載
 - ・ 1891年6月、エンゲルス、「エルフルト綱領批判」書く
 - ・ 1894年10月、エンゲルス「資本論第三巻」編集終え序文書く
 - ・ 1895年、4月～6月、エンゲルス「資本論第三巻」補遺書く
 - ・ 1895年8月15日、エンゲルス没